

## 第6回 史跡及び名勝飛鳥京跡苑池 保存整備・活用検討委員会 議事録要旨

- ・ 日 時：平成30年11月20日（火）14：30～16：00
- ・ 場 所：奈良県文化会館 多目的室
- ・ 出席者：田辺委員長、小野委員、佐野委員、仲委員、西本委員、森川委員  
オブザーバー 文化庁、国営飛鳥歴史公園事務所  
事務局 公園緑地課、文化財保存課  
関係者 南部東部振興課、文化資源活用課、明日香村

- 
- ・ 史跡にも名勝にも指定されている庭園について、芸術的鑑賞的価値を、本物を見せることによって表せることが露出展示の意味と考える。飛鳥京跡苑池の確認された遺構は、構造上や材料において劣化している中で、史跡としての埋蔵文化財の保存の観点から全面露出は難しいと考えている。そこで、本物を見せるという観点から、可能性として中島の一部露出展示は考えられ、見せることにより飛鳥時代の庭園の芸術的鑑賞的価値を示すことができると考える。
  - ・ 名勝の存在意義は活用することにあるため、活用できなければ意味がないと思う。中島をどのように活用をしたいのかははっきりしていないが、中島は単なる浮島ではなく、棧橋の存在や舟でつけていた可能性もあると思う。そのため、外周から見せるだけでは名勝の価値にならないのではないかと。
  - ・ 南池は、元の形をイメージできる形で、その中に部分的に露出展示があるという仕上げ方を取り、飛鳥時代の庭園の芸術的鑑賞的価値を提示する。遺構を見せたい場合は、北池で考古学的な史跡整備を行うという方法もあると思う。南東部の護岸が崩れている箇所の整備が一番の問題であり、石を積み直すのか、転がったままにするのか、議論が必要である。
  - ・ 南池の遺構の保存は必要だと思う。但し遺構を保護して復元すると中島は当時の規模のままだが、南池の規模が縮小されて表示されてしまうという欠点があるため、解決策はないか検討が必要。
  - ・ 露出展示を池周辺の護岸のみするのか、中島の安定した部分でも露出展示をするのか、中島へ渡る様にするのか、全体の見せ方など、その考え方の方向性を議論しないと収まりがつかない。露出展示以外の部分も、何をどのように見せるのかという方針を議論したい。
  - ・ 北池の調査により、難しいと考えられていた露出展示の可能性が出てきた。実物を見せたいという意見があった中で、全面は現実的に難しいので、一部露出展示という方向でよいのではないかと考える。
  - ・ 一部露出展示をするのかという点を決めなければならない。活用の点も議論しながら、後世に伝えていくことも踏まえて議論したい。
  - ・ 中島をどのような形にするのか。露出展示の部分と復元展示する場所との取り合いも検討しないといけないと考える。